

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第278回

金子みすゞ

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年11月1日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

金子 みすゞは、大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人。本名、金子 テル。大正末期から昭和初期にかけて、26歳で死去するまでに500余編もの詩を綴り、そのうち100あまりの詩が雑誌に掲載されたとされる。

Column

前回のコラムの中でも紹介しましたが、童謡詩人の巨匠と称された金子みすゞさんの詩から抜粋した言葉です。この言葉が使われている詩は、以前CMでも使用されていたこともありますので知っている人もいるかもしれません。

このフレーズが使われている詩『こだまでしょうか』の全文を紹介します。

『こだまでしょうか』

「遊ぼう」っていうと「遊ぼう」っていう。「ばか」っていうと「ばか」っていう。
「もう遊ばない」っていうと「遊ばない」っていう。そして、あとでさみしくなって、
「ごめんね」っていうと「ごめんね」っていう。こだまでしょうか、いいえ、誰でも。

今回の言葉にある“こだま”について考えると、やまびこのように自分の声が響いて返ってくるということですから、それは誰かの声や気持ちではありません。そこで『いいえ、誰でも』という“自分以外の誰か”の存在を示すことで『みんな一緒だよ』ということ伝えていたのだと思います。そして、『誰もが幸せを望んでいて、誰もが不安を抱えています。ですから、一方通行にならずにお互いの気持ちに寄り添っていきましょう。これは誰にでもできることなんですよ!』というメッセージだと感じました。

以前のコラムでも『伝え方』について述べたことがありますが、この詩を読んでも『伝え方』はさらに重要だと改めて感じさせてくれます。様々な状況下で生活する人々が共存しているわけですから、人間関係というものは非常に複雑です。些細な言葉の使い方を誤ったことよってトラブルに発展することは少なくありません。実際に会って目を見て話さなくても簡単に伝えることができる時代だからこそ、情報が多すぎて伝わらないことや聞いてもらえないこと、思うように伝わらないことがあると思います。“お互い様”の精神で、伝える前に“聞く準備”を整えてもらう作業も忘れないことで、お互いの気持ちを響かせ合えるのではないのでしょうか。